

令和6年度

関係人口創出・拡大のための対流促進事業 (中間支援組織の提案型モデル事業)

事業の実施結果 (概要)

団体名	認定特定非営利活動法人みちのくトレイルクラブ
採択テーマ	ロングトレイルを活用した福島県浜通り地域の交流人口拡大
事業名	ふくしま浜街道トレイルの交流人口拡大に資するハイキングパスポート制度立上げ

- ・ふくしま浜街道トレイル(200km)(以下FCT)の利用を促進し、新たな人流と関係人口の創出を目指すため、ハイキングパスポート制度を構築する。
- ・スタンプ設置に協力してくれる地域事業者の調査及び協力依頼、各自治体ごとのスタンプの作成と、パスポート本体のデザインを行う。
- ・ハイキングパスポートを手にしたハイカー(歩く人)がスタンプ設置ポイントを訪れることで、地域住民との交流を促し、関係人口の拡大、並びにハイカーの移住促進につなげる。

1. 取組の目的

- ・東日本大震災により大きく人口が減少した福島県浜通り地域にハイカー(歩く人)が訪れることで、地域住民との交流を促し、交流人口、関係人口の拡大、並びにハイカーの移住促進につなげる。
- ・浜通り地域は豊富な自然や文化資源に恵まれているため、ハイキングパスポートを通してよりその効果を高める。

2. 取組の概要

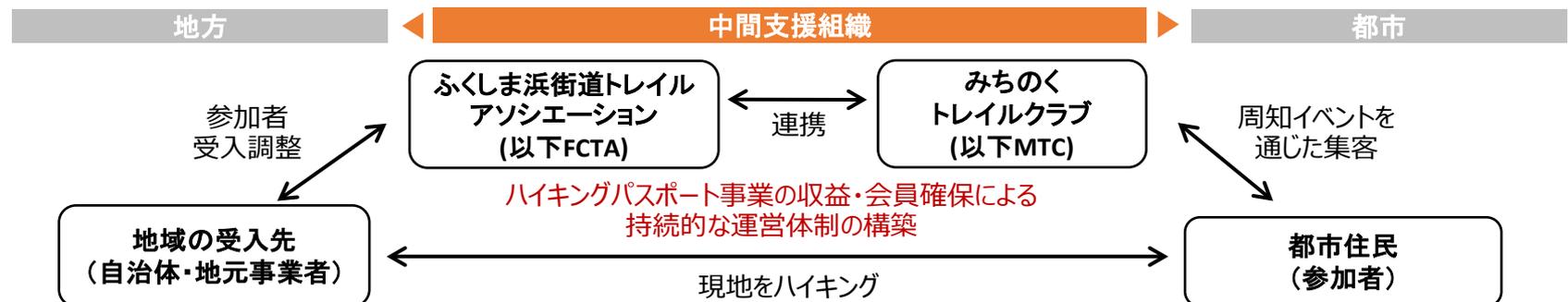
- 1.ハイキングパスポート本体、記念バッジ、市町村スタンプ、スタンプ設置箇所に配置するポップとポスターのデザイン
- 2.スタンプ設置協力箇所の調査及び協力依頼
- 3.HP上におけるハイキングパスポート制度のページ作成

3. 取組の成果・地域への影響

- 1.ハイキングパスポート本体、記念バッジ、市町村スタンプ、スタンプ設置箇所に配置するポップとポスターのデザイン
 - ・13市町村のスタンプを浜通り地域のデザイナー3名に作成いただいた。
- 2.スタンプ設置協力箇所の調査及び協力依頼
 - ・101箇所の施設を訪問し、66軒の施設から快諾をいただいた。ふくしま浜街道トレイルの取り組みの認知向上、さらには取り組みに賛同いただける施設が多く、この機会にオリジナルスタンプを作成するという声もあった。
3. HP上におけるハイキングパスポート制度のページ作成
 - ・インターネット上でハイキングパスポートの告知・購入ができるフローを構築した。

(例)

事業スキーム



1. 各種デザイン

概要

- ハイキングパスポート、記念バッジ、市町村スタンプのデザイン
- スタンプ設置箇所に配置するポップとポスターのデザイン
- HP上におけるハイキングパスポート制度のページ作成

成果



ハイキングパスポート本体のデザイン

スタンプ・記念バッジのデザイン

2. スタンプ設置協力箇所の調査及び協力依頼

概要

- 福島県浜通り13市町村の協力依頼施設の調査を実施。
- 1軒ずつ訪問しハイキングパスポート事業の説明と協力依頼を行った。

成果

- 168施設のリストアップ
- 101箇所の施設を訪問し、66軒の施設から快諾をいただいた。



スタンプポイント設置協力依頼の様子(1)



スタンプポイント設置協力依頼の様子(2)



ぎゅっとスタンプが押されたハイカーのハイキングパスポート



海外からのハイカーもスタンプを楽しみ、地域交流をしている

補足：みちのく潮風トレイルハイキングパスポート事業の成果

概要

- 本事業のハイキングパスポートは、来年度実施開始予定のため、その成果や知見に関しては、みちのく潮風トレイルの先行事例を記載する。

成果

- スタンプ登録施設は現在200箇所を超えており、これまでは設置のお願いをしに行っていたが、徐々に地元の方々から登録したいとお申込をいただくことが増えてきている。
- みちのく潮風トレイルFacebookコミュニティでは、スタンプと地域交流の投稿が80件以上確認できる。

参加者や地域の声

- スタンプ設置スポーツ店店主によるFacebook投稿(抜粋)

GW3泊4日でみちのく潮風トレイルを歩きに来ていたハイカーさんが、スタンプを押しに立ち寄ってくれました😊
 今回は海のアルプス北山崎や鶴の巣断崖を歩いたようで、
 『キツかったけど、楽しかった』
 『道も整備されてるし、トレイルテープもしっかり巻いてあったから、歩きやすかった』と、大

得られた気づきや知見

- ハイカーはトレイルを歩くことの目的の一つとしてスタンプを押すことが挙げられるが、押して歩く中で地域の方々との交流のきっかけとなり、楽しさを覚え積極的に交流していきようになっている。

1. 取組の自立・自走化を図る上での課題

- 本助成金で作るハイキングパスポートは、2025年度後半より発売。収益をトレイルの運営資金とする。今年度、FCTAはNPO法人として登記する予定であるため、ハイキングパスポートの販売益はFCTAに寄付し、FCTAの自立を支援する。FCTAはこれらの売上や寄付をもとに、ファングッズを制作し、ハイカーに応援してもらい、会員を増やしFCTの持続可能な運営のために活動を継続する。

2. 次年度以降の事業展開

- 次年度以降は、NPO法人としてFCTAが助成金を活用し、FCTのガイドブックの作成・販売を予定している。ガイドブックには、ハイカーが歩くために必要な情報を掲載した、FCT200km全線の地図も掲載されるため、多くの販売・利用促進が見込まれる
- トレイル上に不足する道標設置等、よりよいトレイル環境を整備することで、多くのハイカーを迎える体制を強化する。

事業計画等

- ハイキングパスポート(9月30日開始)
- 道標設置(順次)
- ガイドブック作成(発売日未定)
- 名取トレイルセンターにて開催のイベント TRAIL DAYS 2025 PRブースに出展 (2025年4月19日/20日)

3. 自立・自走化に向けた収支計画の概略

- 次年度以降はFCTAがメインでこのトレイルを守っていくことになるため、当法人の支出額は減る。広報費は最低限持っておきたい金額を入れた。また、収入も大部分をFCTAに渡し、徐々に売上も支出も当法人の会計からは外すように計画していく

	費目	R7	R8
支出	人件費 25千円*40日程度	600千円	600千円
	広報宣伝費用	100千円	100千円
収入	ガイドブック売上	600千円	600千円
	ハイキングパスポート売上	300千円	300千円